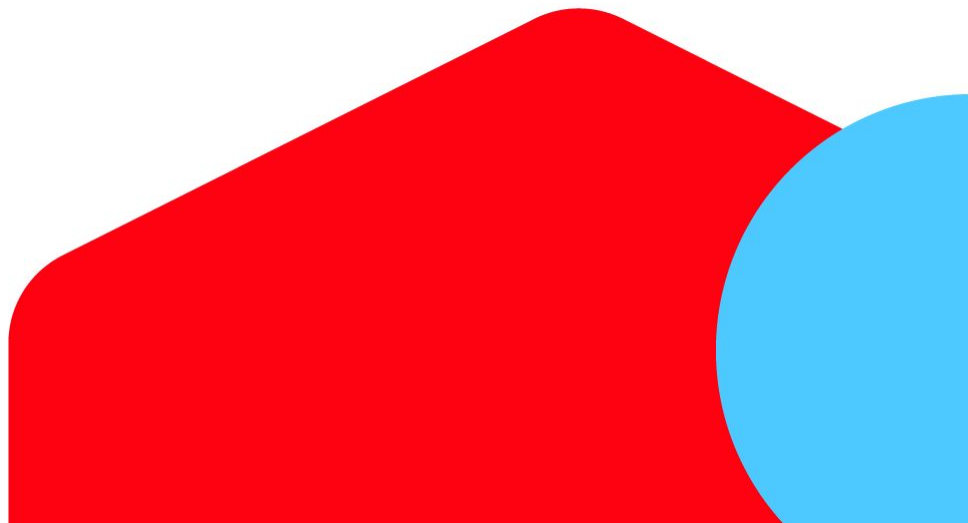


リユース促進に向けた懇談会 説明資料

2025年3月14日
株式会社メルカリ

mercari



Group Mission

あらゆる価値を循環させ、あらゆる人の可能性を広げる

Circulate all forms of value to unleash the potential in all people



mercoin



多種多様な「モノ」が循環するマーケットプレイスへ成長



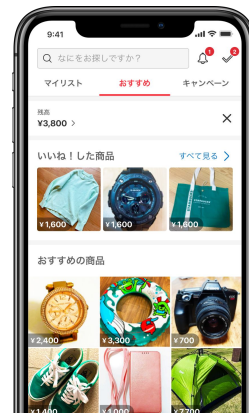
累計出品数

40億品突破



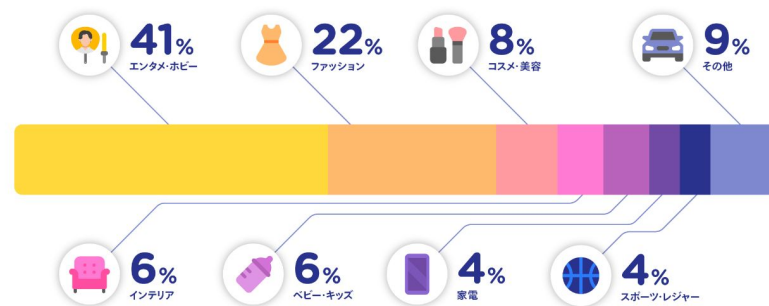
メルカリ月間利用者数

約2,300万人



11TH ANNIVERSARY
INFOGRAPHICS

カテゴリー別シェア



※ サービス開始日(2013年7月2日)からの日本国内累計出品数

※「メルカリ」における取引件数のカテゴリー比率(対象期間:2023年4月1日~2024年3月31日)

©Mercari, Inc.

こんな物が売れている



♡ 1 💬 3

ブラウス

M・未使用に近い

🕒 5時間前

¥ 699 送料込み



♡ 0 💬 0

LIFE SHIFT(ライフ・シフト) 100年時代の人生戦略

やや傷や汚れあり

🕒 半年以上前

¥ 750 送料込み



📶 ♡ 10 💬

🏠 メルカリShops

跳び箱 10段 現地引き取り

体育器具・用品・傷や汚れあり

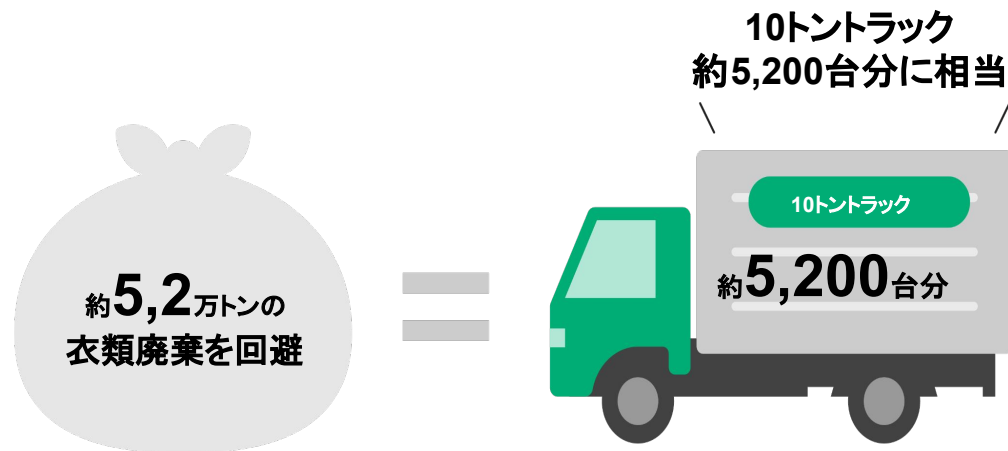
★★★★★ 1

¥ 20,000 送料込み(出品者負担)

※学校の統廃合で不要になった学校備品

「メルカリ」の取引を通じて「捨てるをへらす」

廃棄を回避できた衣類の重量



日本で1年間に捨てられる衣類の総量 **48.5万トン** の約**10%**に相当

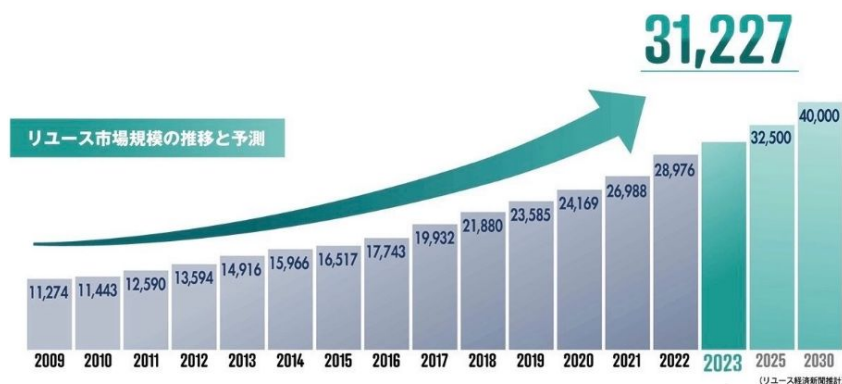
衣類の平均使用年数は
3.2年 伸びた

温室効果ガス削減貢献量は
算定対象カテゴリーで
日米合わせて
年間約 **61万トン**

「リユース」市場の拡大とその可能性

国内のリユース市場規模は
2030年に 4兆円 に拡大する見込み

国民一人あたりの“持ちモノ資産”額は
平均約182.4万円



引用:リユース経済新聞「リユース市場とは？動向と将来性を専門紙が解説(2025年版)」(注)法人間の売買および輸出に関する値は含まれておらず、自動車や住宅等は集計対象外

https://www.recycle-tsushin.com/news/detail_5804.php

引用:株式会社メルカリ、ニッセイ基礎研究所「『日本の「持ちモノ資産」に関する調査』所有物の価値を「持ちモノ資産」として算定。日本全国で推計約16.4兆円、一人当たり平均約82.4万円」

https://about.mercari.com/press/news/articles/20241128_mochimonoshisan/

メーカーと二次流通が連携したサステナブルファッションの推進

例1:メーカーの脱炭素※収益化の支援

現状

- 脱炭素への要請から、「販売した製品の廃棄」(Scope3のカテゴリ12)の削減に向け、メーカー自身も取り組む必要がある
- メーカーの自社回収・リセールは世界的に広がっており、日本でも始める企業が出てきているがまだ少数

課題

- 例えば良質なリユース品をメーカーが買い取ることは可能だが、メーカー側の収益性の想定が難しく、オペレーション構築も難しいことからこの足を踏む事業者が多い

解決策

- 収益性を立証できるよう、メーカーのスタートに対する政府支援があると循環が広がる



メーカーと二次流通が連携したサステナブルファッションの推進

例2: QRコードで消費者に寄り添い、製品寿命を最大化する

現状

- 消費者が製品のサステナビリティやトレーサビリティなどの情報を確認する際に、手軽に確認する方法がない
- 一方で、EU においては、製品に貼付されたQRコード等を読み取ることにより、消費者が再生材利用、環境負荷、メンテナンス方法等を確認できるDigital Product Passportの取り組みが進行中である

課題

- 消費者の購入時やリユース時に、**すぐに製品情報を取得できる仕組み** が整っていない

解決策

- メーカーは、基礎的な製品のデータ(製品名称、サイズ、色、製造年月日等)やサステナビリティ等の情報が格納されたリンクのQRコード等を製品に付ける。
- これにより、**リユース時の出品やメーカーのリセールが容易に** なり、製品寿命の最大化が期待される。また、ブランド価値の向上につながり、リユースの推進を強く後押しする



行政や企業の枠を越えた連携を通じて
「捨てるをへらし」、
限りある資源が大切に使われる社会を目指す

